

## ポーランドの石炭会社とのCO<sub>2</sub>排出権売買契約の締結について (ポーランド国内2箇所の炭鉱におけるメタンガス利用JIプロジェクト)

当社は、9月15日、ポーランドの国有鉱業会社「コンパーニア・ヴェングロヴァ ※1」との間で、同社が実施する炭鉱メタンガス利用JI※2プロジェクトから得られるCO<sub>2</sub>排出権の売買契約を締結しましたのでお知らせします。

本プロジェクトは、これまで採炭時に大気中に放出されていたメタンガスを回収し、燃料として利用することで、発電および燃焼を行うとともに、温室効果ガスを排出削減することができます。なお、メタンガスの温室効果は二酸化炭素の約21倍とされていることから、本プロジェクトは地球温暖化防止に大きく寄与することが期待されます。契約期間は2009年から2012年までの4年間で、契約数量は合計30万t-CO<sub>2</sub>以上を見込んでおり、当社が全量買い取る予定です。

本プロジェクトにおける当社の役割は、プロジェクト設計のほか、JIプロジェクトの実現化に必要な諸手続きを行うもので、ポーランド国においてCO<sub>2</sub>排出権の売買契約を締結したのは、ヤスチェンベ石炭公社のプロジェクト( [平成20年3月14日お知らせ済](#) [PDF:1,178KB])に続き2件目となります。

今後、日本とポーランド両国政府の承認手続きを進めてまいります。

当社は、引き続き、これらの取り組みを通じてCO<sub>2</sub>排出権を獲得するとともに、海外における温室効果ガスの排出を削減することにより、地球温暖化防止に向けた積極的な取り組みを展開してまいります。

### 1. 売買契約締結日

2009年9月15日

### 2. CO<sub>2</sub>排出権購入予定量

2009年～2012年の4年間で、合計約30万t-CO<sub>2</sub>以上

(当社が本プロジェクトから創出されるCO<sub>2</sub>排出権を全量購入予定)

### 3. プロジェクトの内容

コンパーニア・ヴェングロヴァが所有する2箇所の炭鉱において、採炭時にこれまで大気中に放出されていたメタンガスの回収を行い、以下のプロジェクトに利用します。

#### (1)ガスエンジン発電装置の新設

回収したメタンガスを新設するガスエンジン発電設備の燃料とし、発生した電力を炭鉱内の施設で利用します。

#### (2)石炭焚ボイラの改造

炭鉱内の給湯や暖房に使用している既設ボイラを、石炭焚から、回収したメタンガスを燃料として利用するガス焚に改造します。

#### (3)フレア装置の新設

発電などに使用されなかった余剰メタンガスについては、フレア装置で燃焼させます。

### ※炭鉱別のプロジェクト概要(導入設備)

炭鉱名	ガスエンジン発電装置の新設	既設石炭焚ボイラの改造	フレア装置の新設
ソシニーツァ・マコショーヴィ炭鉱※3	1基 (出力4, 577kW)	ガス焚に改造	1基
シチェグウオヴィーツェ炭鉱 ※4	1基 (出力4, 577kW)	—	1基

### ※1コンパーニア・ヴェングロヴァ

16の炭鉱を所有し、経営管理を行っている欧州最大の国有鉱業会社

・社長 :ミロスワフ・グギェル氏

・設立 :2003年

・本社所在地:ポーランド南部のカトビツェ市

・従業員数 :64,955名(2008年末時点)

・採炭量:4,456万トン(2008年実績)

※2JI(Joint Implementation: 共同実施)

京都議定書第6条によって創設された制度。先進国同士が温室効果ガス削減のため共同でプロジェクトを実施し、その削減分を投資国が自国の目標達成に利用できる。

※3ソシニーツァ・マコショーヴィ炭鉱

- ・所在地 : グリビーツェ市
- ・従業員数 : 5,687名(2008年末時点)
- ・採炭埋蔵量: 1億1,976万トン
- ・年間採炭量: 457万トン(2008年実績)

※4シチェグウオヴィーツェ炭鉱

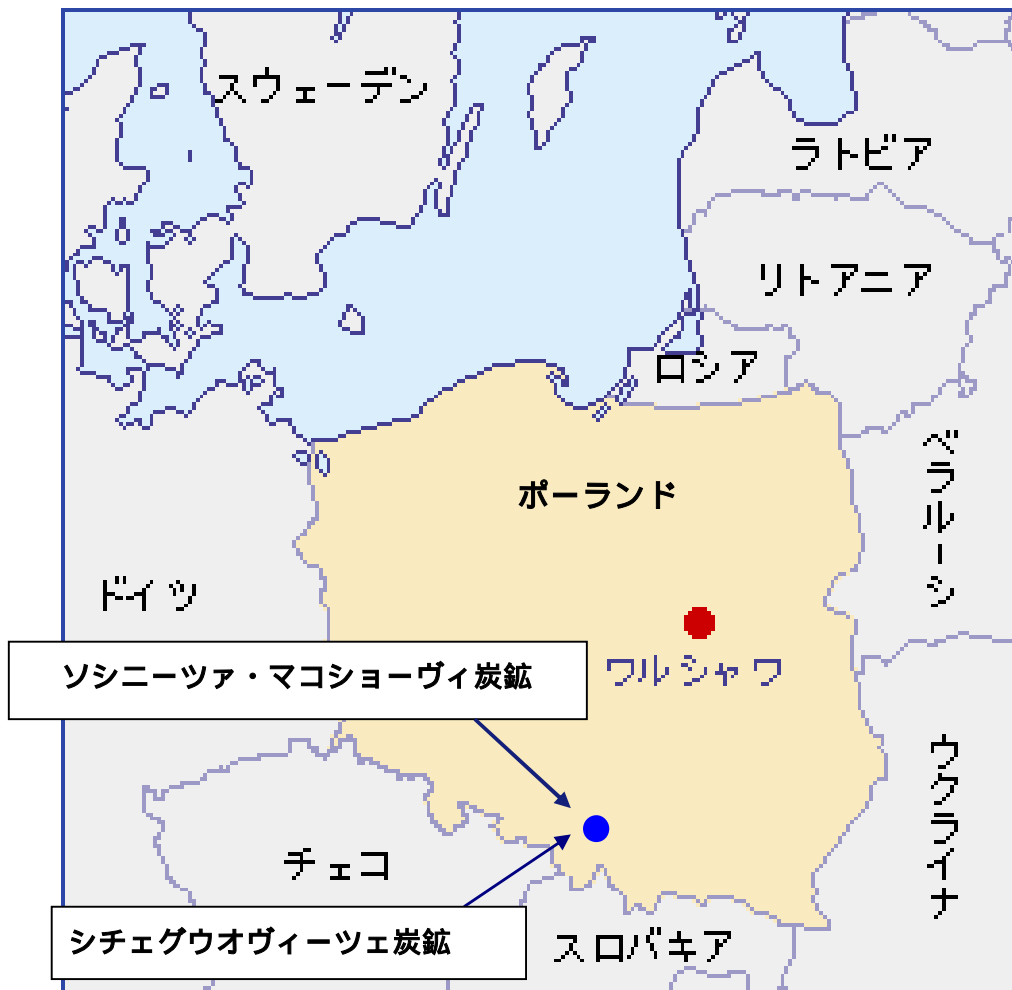
- ・所在地 : クヌルフ市
- ・従業員数 : 3,154名(2008年末時点)
- ・採炭埋蔵量: 6,674万トン
- ・年間採炭量: 183万トン(2008年実績)

以上

【添付資料】

 [プロジェクト地点図\[PDF:15KB\]](#)

## プロジェクト地点図



出典：外務省ホームページ